

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市立博物館協議会				
事務局 (担当課)		生涯学習部博物館 電話 0 4 2 - 7 5 0 - 8 0 3 0				
開催日時		令和元年 1 1 月 7 日 (水) 午前 1 0 時 ~ 正午				
開催場所		博物館小会議室				
出席者	委員	1 0 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	5 人 (博物館長他 4 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 あいさつ 2 議題 (1) 博物館の活動評価について (2) その他				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 経 過

議事に先立ち、学習資料展および小学生の団体見学の様子を視察した。

青木会長のあいさつののち、青木会長の司会により議事を進行した。

2 議 題（ は委員の発言、 は事務局の発言）

（ 1 ） 博物館の活動評価について

事務局から博物館の活動評価について、配布資料に基づき説明を行った。

1 常設展示のリニューアル

「市民による常設展示の展示替えの検討・実施」

人材や労力等には限りがあるのでそこを反映した形で評価すべき。余力の有無も関わってくる。

市民協働なので、学芸員だけの判断で進めるものではない。市民視点を取り入れながら、必要なところを順次進めている。限りある予算の中で工夫しながらリニューアルを進めているのが当館の特徴である。あとは発信方法を検討したい。

市民学芸員は熟練者が多く、知識・経験は十分にあるが、新たに事業を実施しようとするともコーディネートする学芸員の負担が増すため、すぐには対応できない。

市民学芸員の世代交代はどうなっているか。

2年をめぐりに定期的に新規募集しており、30代の方も加入している。長い方は10年以上になるが、先細り感はない。ただし、各分野の市民の会には高齢化や固定化が否めない団体がある。

ボランティアで運営するとしても担当学芸員に負担はかかる。ボランティアコーディネーターと学芸員が一緒なのが日本の博物館の悪いところであり、良いところでもある。

外国人の来館者数の割合は

統計はとっていないが、印象では少ない。外国語表記について来館者からの要望はない。外国人の動向について把握しておく必要はある。

限られた人材や時間の中では、外国語表記に取り組むべきか、バリアフリーをさらに進めるべきか、どちらかに絞るべきである。

市内では外国籍の子どもが増えている。学校の先生から不自由がないか聞いたり、さがみはら国際交流ラウンジと協力することも検討してはどうか。

学年に2～3人は日本語が読めない児童がいるが、学校や子どもたちがフォローしているので外国語表記については必要を感じていない。英語圏よりもアジア圏の児童が多い。バリアフリーも進められているので来館しやすい。

JAXAの外国人の来所はどのような状況か、博物館に来られるような仕組みはできないか。

JAXAへは研究者の視察が多く、限られた時間でスケジュールが組まれており、博物館への来館は実際には難しい。

尾崎号堂記念館や吉野宿ふじやの外国語表記を進めて、外国人観光客を勧誘してはどうか。

多言語化、バリアフリー化は少しずつ進めている。外国語についてはいろいろな言語の児童や生徒がいるので市内小中学校の個々の事情に合わせて対応することは難しい。視覚障害者への音声案内等の対応も考えている。

来年のオリンピックで市内に宿泊する選手や関係者、観光客に対して、博物館を

宣伝したらどうか。

2 宇宙教育普及事業の推進

「各種宇宙教育普及事業の展開」

JAXAとの連携も重要であるが、JAXAに頼らない博物館独自の企画を展開し、次世代につなげていくことも考えてはどうか。望むことは多いが、学芸員がオーバーワークにならないよう事業を進める必要がある。あとは、多くの方に来てもらうために博物館を広く知ってもらう必要もある。

JAXAのブランド力は強いが、博物館独自の事業のアピールも進めていきたい。

委託業者によるプラネタリウムの独自企画も進めており、JAXAのブランド力を活かしつつ、博物館の独自事業も実施できている。

JAXAはサイエンスだけだが、博物館はサイエンスと文化を扱っている。10年先を見据えて、博物館が取り扱う分野を拡張してテクノロジーやエンジニアリングの部門もカバーしてはどうか。

当館の特徴はプラネタリウムが併設されていることである。市内諸団体と連携したプラネタリウムを活用した事業も実施している。今後も多くの市内諸団体と連携して事業の幅を広げていきたい。さらに、総合博物館としての特徴を活かし分野を横断した企画も検討したい。

県内の科学館では多くの子ども達を集めている。県内の他館との住み分けはなされているのか。総合博物館の強みを生かしたプラネタリウムの企画を工夫しても良いのではないか。JAXAとの連携以外の認知度を上げるよう期待している。

博物館ではパブリックビューイング等の事業も実施している。もっとアピールしてはどうか。

天文に関する様々なプロジェクトの成果の公式発表はJAXAが行っており、博

博物館では市民に親しんでもらうためにパブリックビューイング等を実施している。市民には好評であり、マスコミ各社も取材に来ている。

3 博物館所管施設・学校・公民館等との連携

「博物館ネットワーク計画の推進」「学校への学習支援」

「公民館との連携」

博物館の講演会は午後で開催されることが多く、博物館所管施設である尾崎号堂記念館や吉野宿ふじやでのイベントと開催時間が重なる場合もあるので午前中の開催も検討してはどうか。

博物館所管施設とイベントが重なることもあり、調整がうまくできていないことは反省点である。今後は関連する分野同士でイベントが重ならないよう、日程を調整していきたい。

小学校から博物館の見学に来ることができるのはありがたい。子ども達に相模原の良いところを聞くと博物館の名前が挙がる。博物館の認知度は子どもたちの中で高く、来るだけでも価値がある。

学校の団体見学の事前打合せにかかる時間はどれくらいか。

館内見学も含めて1時間弱かかる。放課後や夏休みに来ていただくので、日程が重なることも多く、1日に複数回、同時に複数校と打合せをする場合もある。

市内小学校72校との打合せと当日対応がかなりの負担になっているので効率的に進められるよう検討中である。

天体観測室は学校利用の際に見学できるのか。実際に望遠鏡で星空を見ると大変感動するので子ども達にも見せたい。

学校での団体利用時には人数的に天体観測室の利用は難しいので、観望会に参

加してほしい。

小学校の先生でも博物館を知らない人が多いので、教員の初任者研修で博物館利用について知らせる機会はないのか。

初任者研修も規模が年々縮小されており、博物館を利用する時間がない。

小学校4年生が学習のために必ず来館するのであれば、教育委員会から学校や先生に対し博物館をもっとアピールしてほしい。

指導主事が配置されていないので、学校支援への停滞につながるのではないか。

現在、嘱託の学習指導員が配置されている。どうしたら現場の先生たちに情報を伝えられるのが課題である。情報収集しながら良い方法を検討していきたい。

学校の皆と一緒に博物館に来ることが重要である。

貸出キットの認知度は教員間でも差があり、一般に認知度は低い。利用すると良い感想を持つ教員が多いので、もっと宣伝できたら良いと思う。教員の研修でも利用しているので、良いことだと思う

貸出キットの利用は地域に偏りはないのか。

地域に偏りはないが、博物館に取りに来ていただくかなければいけないので遠方の学校には負担が大きい。

教員も働き方改革で取りに来る時間がないのでは。

距離が遠いと先生にはハードルが高い。

小学校の校長と副校長の博物館に対する認識は。

個人差がある。校長の部会等で働きかける方法では限界がある。

貸出キットは国語での利用が多く、次いで総合的な学習での利用である。

糸車や火縄銃、考古分野、昔の道具の貸出実績が多い。

貸出キットを宅配便で送るとするのはどうか。

時間がかかるのと、資料が大きいものが多いので宅配便の利用は難しい。博物館や貸出キットの周知には現場の先生に働きかけることが重要、現場教員の口コミが重要である。メールや郵便による周知方法は教員が処理しきれないので埋もれてしまう。現場のやる気に任せるしかないところではあるが、多くの教員が博物館を好きになってくれれば良いと思う。

貸出キットのリストはあるのか。また、どの単元に利用できるのかわかるようなリストになっているのか。

どの単元で利用できる資料なのかわかるようなリストがほしい。ただし、学芸員の負担が少ないようにお願いしたい。

貸出キットのリストはある。e-ネットSAGAMIでも閲覧可能である。リストに掲載する情報については、今後、検討したい。

見学来館時に貸出キットを渡す方法を検討してはどうか。

4 市民との協働による博物館活動の展開

「市民の会の活動の展開」「市民学芸員の活動の展開」

市民学芸員の定例会や展示リニューアルの検討会議の主体はどこか。

市民学芸員が主体である。必要であれば学芸員が加わって協力している。市民学芸員にはいくつかのチームがあり、複数のチームに所属している方もいる。定例会やイベントの時だけ参加される方もおり、各自可能な範囲で参加している。

市民学芸員の定例会は各チームの合同会議のようなものか。

チームごとにも会議を開催しているが、定例会は毎月第3水曜日に開催され、全員が対象である。

評価は外部からわかりやすくする必要がある。展示リニューアルの検討会議は市民学芸員が主体ということがわかりにくい。評価は、問題点を洗い出し、改善につなげるのが狙い。評価結果を公表できるように実施しているので、会議の主体がはっきりわかるようにすべきである。業務委託についてはプラネタリウム・受付・総合管理だけでなく、尾崎弔堂記念館や吉野宿ふじやの市民の会への普及事業委託も年報にわかりやすく記載すべきである。

尾崎弔堂記念館や吉野宿ふじやは事業提案による協働事業でスタートして3年間実施した。その成果を踏まえて、協働ではなく委託としてお願いして、現在に至っている。わかりやすく表現するようにしたい。

常設展のリニューアルは事業規模が大きく、予算の確保が困難な状況にある。しかしながら、市の総合計画に明記されている事業であるため、工夫をしながら実施しなければならない。そこで、市民の会と協働で実施することとした。市民協働による展示リニューアルをもっとアピールする必要性を感じている。

市民学芸員の活動と各分野の市民の会との違いがわかるように広報すべき。そうすれば市民も参加しやすい。もっとわかりやすく説明してほしい。文章にすると区別がわかりにくい。

若い世代が参加している市民の会とはどのような団体か。

博物館天文クラブ等、分野によって幅広い世代が所属している。さがみはら動物標本クラブは大学生等、20代が主体となっている。

市民協働は当館の主軸である。市民目線による解説のわかりやすさ等、市民が

博物館活動に参加することのメリットは当館にとって非常に多い。多くの市民団体に支えられており、その成果が学びの収穫祭である。

学びの収穫祭はどれだけ周知しているのか。

広報さがみはらへの掲載、博物館ホームページでの周知の他、ポスターを各公民館に配布している。チラシは館内だけである。

5 博物館の基礎的な機能を果たすために必要な活動

「市民とともに実施する資料整理及び展示、調査成果の発表」

研究報告は年1回の発行か。

年1回である。研究報告はかつては販売していたが、現在は博物館のホームページで電子版を公開している。

研究報告の原稿は自分たちでチェックしているのか、査読はないのか。

原稿の公募はしておらず、査読はない。

市民の中には博物館に関わらず、活動をしている方もいる。そのような方は発表する場がないので、博物館の研究報告での発表も検討したらどうか。

今後の課題としたい。

展示も含めて成果の公表についての市民の反応はどうか。アンケート等を行なっているのか。アンケートを行なっている場合、そこで出された意見に対して回答しているのか。

展示・講演会ではアンケート調査を行なっており、その結果は事業報告で報告をしているが、公表はしていない。

館内に掲示する等、市民の声を活字にして公表することも検討してはどうか。特別展だけでなく、常設展、受付対応等への市民の声を公表することも検討しては

どうか。早く回答を出したというスピード感が重要なので、その都度、掲示してはどうか。初めての来館者に信頼感を与え、来館者と博物館とで双方向のコミュニケーションがとれているという雰囲気づくりができる。

商業施設等では実施している。クレームにも対応していることを示すことが、SNS等での誹謗中傷を防ぐ方法の一つである。

一般来館者の声を拾うことができていない。図書館ではご意見箱を設置し、回答を掲示して公表している。今後、博物館でも検討したい。

手書きはワープロ打ちにして、個人が特定できないようにすべきである。

スーパーマーケットでは利用者の声とその回答を撤去しているところもある。

回答の表現が難しい。逆に攻撃対象になることもある。

(2) その他

博物館は知られていないと感じた。プラネタリウムも知られていない。来たことのある人も、数多くの事業が行われていることを知らない。職場体験の受け入れも、博物館実習の受け入れ等も知られていない。もったいないので普及することが必要である。

博物館には学芸員という専門職がいるので良い事業ができています。他と比べて審議会や協議会で、ここまで活発な意見が出る会議も少ない。

博物館は知られていない。尾崎号堂記念館や吉野宿ふじやはもっと知られていない。交通の便が良くないことも大きな一因である。博物館からの直行便も一つの案だが、市の交通網整備と結びつく問題である。市全体の問題として捉えて議論していく必要があるのではないか。大きな展望が必要である。

相模原市立博物館は県内だけでなく、全国でも市民活動が一番活発ではないか。

同業者にもっとアピールして、視察に来ていただいて、相模原市立博物館の活動

を発信したらどうか。

ボランティアにポスターやチラシを配布して、種々の施設に掲示、回覧してもらうよう依頼したらどうか。多くの人に知ってもらえるようもっと努力が必要である。

この会議を通じて博物館の大変さを知った。

ここに博物館があることが重要である。博物館が存在し続けられれば、誰かがいずれ認識してくれるので継続が大切である。

小学生が第一歩、中学生、高校生へとつなげていき、博物館があることが誇れるようにしてほしい。

被災した文化財のレスキューや災害を記録していくことも重要である。

意見を出すだけでなく後に残っていく形が重要である。

いただいたご意見を参考にして今後も活動していきたい。

最後に博物館長より2年にわたる協議会委員活動への謝辞を述べ、相模原市立博物館協議会第12期の会議を終了した。

以 上

相模原市立博物館協議会委員出欠席名簿

No	氏 名	備 考	選出区分	出欠席
1	水戸 一平	市立富士見小学校教諭	学校教育	出席
2	千葉 美希子	県立弥栄高等学校副校長	同	出席
3	戸塚 厚生	市文化財研究協議会会長	社会教育	出席
4	若林 由美	市立小中学校 PTA 連絡協議会副会長	同	出席
5	井上 博美	市女性学習グループ連絡協議会書記	家庭教育の向上に資 する活動を行う者	出席
6	小瀬 康行	東京家政学院大学教授	学識経験者	出席
7	青木 雄司	神奈川県公園協会職員	同	出席
8	生田 ちさと	宇宙科学研究所准教授	同	出席
9	三宅 潔	市の住民	市民公募	出席
10	成田 治子	市の住民	同	出席